

令和8年度 防火服仕様書（消防総務課）

1 品 名

防火服一式

- ・防火服上衣（デュアルファインショート丈）
- ・防火服ズボン（デュアルファインハイウエストズボン）
- ・防火帽（P22型）
- ・しころ（P22型用）
- ・墜落制止用器具（NEO-R2型）
- ・防火靴（SG-AO(GS2)）
- ・防火服用ギアバッグ（MAXバック）

2 数 量

20式

3 納入期日

令和9年3月26日(金)

4 納入場所

磐田市消防署（磐田市今之浦二丁目14-2）

エミユファイター®防火服デュアルファイン
(ショート丈・ハイウエスト型)
仕様書

磐田市消防本部

1. 概要

この防火服、株式会社赤尾製エミユファイター®防火服デュアルファイン(当市指定)は、消火活動・救助活動等における現場活動において、安全性・運動機能性の向上、またヒートストレス軽減を考慮し、上衣丈はショートタイプとし、ズボンについてはハイウエストタイプとする。

外衣と中衣からなる多層構造とし、『ボディ・ナビデザイン』による特殊立体デザインの上衣とズボンとする。外衣と中衣は着脱可能なものとする。

防火服上衣は単体で、防火ズボンは当本部活動服ズボン着用で、防火服のISO規格であるISO11999-3タイプ1に準拠したものとする。また、血液・体液を媒介とする感染症病原体から隊員を保護するため、透湿防水層には、JIS T8060D及びJIS T8061Dに規定されている人工血液バリア性、ウィルスバリア性試験においてクラス6レベルに適合する素材を用いること。

2. 使用材料

1)

①外衣生地 (上衣/ズボン共)

品番：X29720 (メイン色)

品名：ジーバリア®ライト

混紡率：メタ型アラミド 53±5%・パラ型アラミド 47±5%

組織：二重織

重量：215±20 g/m²

色相：ネイビー (メタ型アラミドは原液着色)

2) 中衣

①透湿防水層 (上衣/ズボン共)

アラミド100%基布にゴア クロステック®メンブレンをラミネートしたものとする。

要求性能

(耐水圧：初期及び洗濯20回 294Kpa以上 JIS L 1092 フィルム面加圧 目皿使用)

(透湿度 800 g/m²/h以上 JIS L 1099 B-2法)

(人工血液バリア性、ウィルスバリア性試験：レベル6クラス JIS T8060D及び

JIS T8061D)

②遮熱層兼裏地

(上着用) 品名 テイジン・テックウェーブ (TM)

品番 X29F20

色相 濃紺

(ズボン用) 品名 テイジン・エクスファイア®リップストップ

品番 X29R20

色相 濃紺 (格子部はゴールド色)

3) 補助材料

ア. 内袖口 アラミド100%ニット

イ. 面ファスナー 幅25mm・50mm・38mm

ウ. 反射材 パンチングメッシュ/ 黄・銀・黄75mm (蓄光シリコンレーン)

エ. ファスナー YKKファスナー

オ. サスペンダー ゴム製テープ幅約38mm黒色

カ. 押しホック 真鍮製#7050Aマーク

キ. 縫製糸 メタ型アラミド 100% 40番

パラ型アラミド (フィラメント) 30番 (反射テープ部分)

ク. アイスポケット ナイロン黒メッシュ

ケ. 補強布 パラ系アラミド100%基布にハイソリッドポリマーコーティング
(両肩・両肘・両膝・ポケット一部)

3. 縫製

1) 全般

- ア. 各部の縫い合わせは良好であること。
- イ. 糸調子は良好であること。
- ウ. 縫い代はオーバーロックを掛け縫い始めと縫い終わりは返し針を施すこと。
- エ. 各部の縫製は防水構造を用いた縫製とする。

4. 上衣

1) 身頃

- ア. ショートタイプの上衣とする。
- イ. 左前身は前立付きとし、前立内側に面ファスナー及びコイルファスナーを縫い付ける。
- ウ. 前身頃のハギ協合わせはオーバーロックを掛け地縫いして片倒し飾り縫いとする。
- エ. 右前身頃に面ファスナーとコイルファスナーと共生地つまみを付ける。
- オ. 後身頃は一枚仕立てとする。裾部についてはロングテールタイプとする。
- カ. 後身頃左裾部にスリット加工を施す。
- キ. 両胸上部にマイクフックを取り付ける（水平型）。
- ク. 前身頃胸部・後身頃背中・裾に反射テープを縫い付ける（別図参照）。
- ケ. 見返し上部にハギを入れ中衣着脱のコイルファスナーを付ける。
- コ. 後身頃部分に当市指定書体・文字「静岡県 磐田市消防本部」を刺繍にて文字を入れる。
- サ. 後身頃垂れ部に当市指定書体・文字「IWATA」をプリントにて文字を入れる。
- シ. ポケット上部には裏面に力布として透湿防水層を縫い付ける。
- ス. 右前身頃見返し下部に片布を取り付ける。
- セ. 両肩部、両肘部にアラシールドを縫い付ける。

2) 襟

- ア. 表及び裏に共布を用いた一枚襟とし、芯地を入れ、地縫いの上飾り縫いをする。
- イ. 襟の前部にはストラップが取り付けられていること。
- ウ. 襟付けは防水構造を用いた縫製とする。
- エ. 表襟中央に襟吊りとサイズマークを付ける。

3) 袖

- ア. 袖は特殊ハギを用いた4枚袖とする。
- イ. 運動性を良くする為に後袖山にダーツを設ける。
- ウ. 袖口にアラミド素材のジャージと浸水防止用透湿防水層（シルバー不可）を縫い付ける。
- エ. 袖口に反射テープを縫い付ける（別図参照）。
- オ. 袖口に中衣止め用押しホック付ナイロンテープを左右各2個取り付ける。
- カ. 袖口にタブにフリーマジックを付け調整可能にする。
- キ. 左袖へ当市指定の正円9cmの黒面ファスナーを取り付ける

4) 胸ポケット

- ア. 両胸に三方風巾ポケットを取り付け、三分割の雨蓋を取り付ける。
- イ. ポケット内側に警笛用ループを取り付ける。
- ウ. ポケット底部に水抜き穴を設ける。

5) 裾ポケット

- ア. ポケット上部は水平ポケット、形状は三方風巾ポケットを左右に縫い付ける。
- イ. 雨蓋は芯地を入れ、面ファスナーを付け地縫いの上飾り縫いとする。
- ウ. ポケット内側に警笛用ループを取り付ける。
- エ. ポケット底部に水抜き穴を設ける。

8) 中衣

- ア. 中衣はゴア透湿防水層と遮熱層兼裏地（不織布不可）からなり、各々を重ね縫いすること。
- イ. 肩部に難燃フェルトを（遮熱層兼裏地）縫い付ける。

- ウ. 両脇に保冷材収納用ポケットを縫い付ける。
- エ. 透湿防水層（不織布不可）は地縫いをして片倒し飾り縫いをしてシームテープで目止めをする。
- オ. 取り扱い表示・サイズマークを縫い付ける。
- カ. バイヤステープで身頃及び袖口を始末し、外衣着脱用コイルファスナーを付ける。

5. ズボン

1) 身頃

- ア. ハイウエストタイプのズボンとする。
- イ. ズボンの形状は、最初から「く」の字の様に曲がっているデザインとしてサスペンダーにより支持するものとする。
- ウ. 内股部・脇部に運動性を良くするための特殊ハギを入れる。
- エ. 脇縫い・内股縫い・尻縫いは裁ち目にオーバーロックを掛け地縫いし片倒し飾り縫いとする。
- オ. 左前身頃安全帯通しの下部へカラビナ用ループを取り付ける。

2) 前立て

- ア. 前立てはコイルファスナーと面ファスナーの併用仕立てとし押しホックで止める。
- イ. 押しホックの裏側には透湿防水層の当て布を付ける。

3) 膝部

- ア. 運動性を良くする為に膝部はバイヤス裁ちにする。
- イ. 膝部にアラシールドを縫い付ける。

4) 腰部

- ア. ハイウエスト内側部には補強として難燃フェルトを挿入し、ハイウエストの倒れこみ防止措置を講じること。
- イ. 前身頃上部に外衣共生地でサスペンダー受け金具支持台を縫い付ける。端末部分はカン止めをする。
- ウ. サスペンダーはS P型とする。
- エ. 腰裏地に中衣着脱のコイルファスナーを付ける。
- オ. 左腰裏に片布・サイズマークを縫い付ける。

5) 腰部調整ベルト

- ア. ベルト通しを6本縫い付ける。
- イ. ベルト幅は約38mmとし、腰の両側で確実に締められる構造であること。
- ウ. ベルトが抜けないように先金（樹脂製）付きとする。
- エ. 締め付けた後に緩まないようにフリー面ファスナーで固定できる構造であること。

6) 安全帯通し

- ア. 安全帯通しを5本縫い付ける。

7) 裾

- ア. 両裾に反射テープを縫い付ける（別図参照）。
- イ. 裾口脇側に開閉コイルファスナーを取り付ける。
- ウ. 裾口に絞り用フラップを取り付ける。
- エ. 中衣固定のため、押しホック付ナイロンテープを左右各2個取り付けること。

8) ポケット

- ア. 左右脇部に雨蓋付きポケットを縫い付け、ポケット下部にアラシールドを取り付けること。
- イ. ポケット底部に水抜き穴を設ける。

9) 中衣

- ア. 中衣は透湿防水層と遮熱層兼裏地（不織布不可）からなり、各々を重ね縫いすること。
- イ. 透湿防水層は地縫いをして片倒し飾り縫いシームテープで目止めをする。
- ウ. 膝部に難燃フェルトを（遮熱層兼裏地側）縫い付ける。
- エ. バイヤステープで腰部及び裾口を始末し、外衣着脱コイルファスナーと面ファスナーを付ける。
- オ. 取り扱い表示・サイズマークを取り付ける。

6. サイズ表

1) 上衣

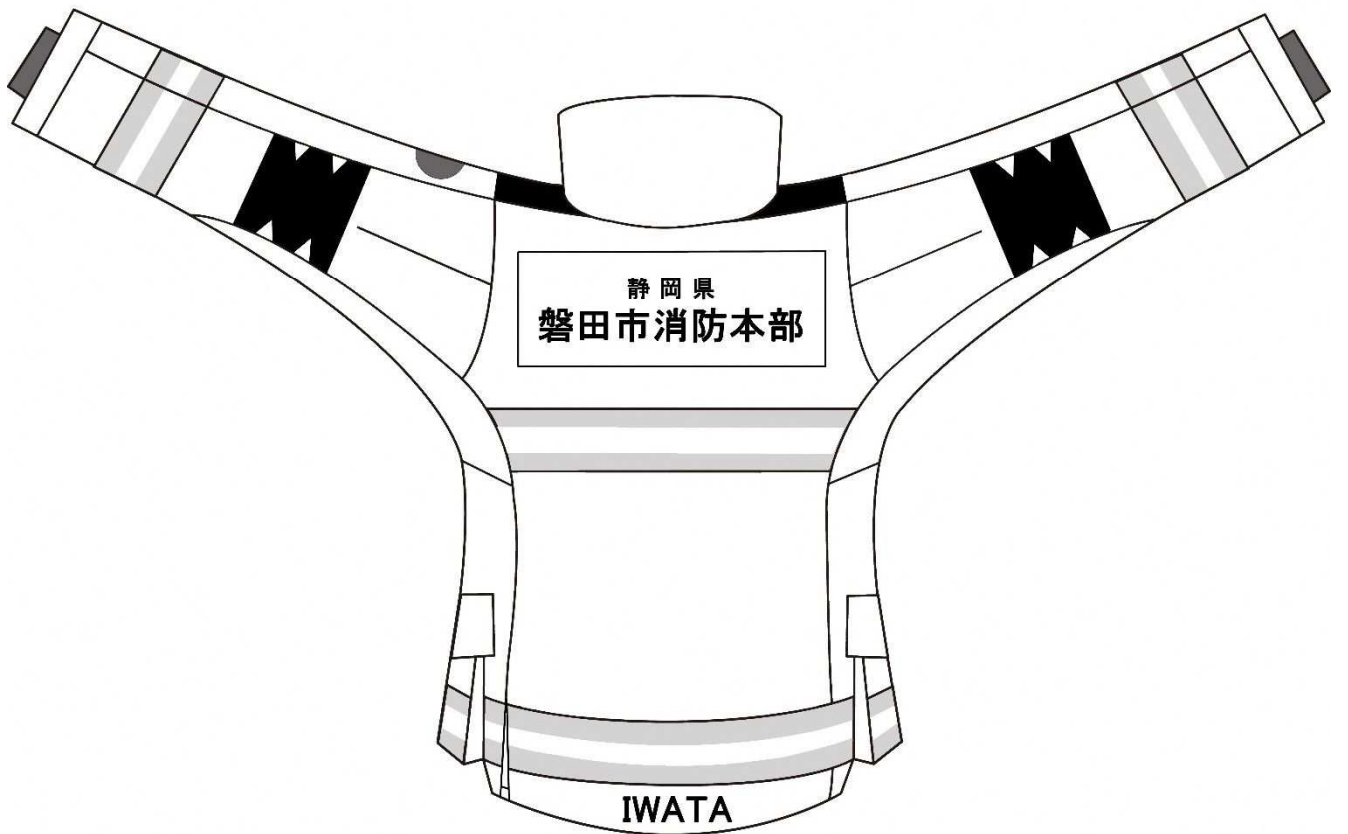
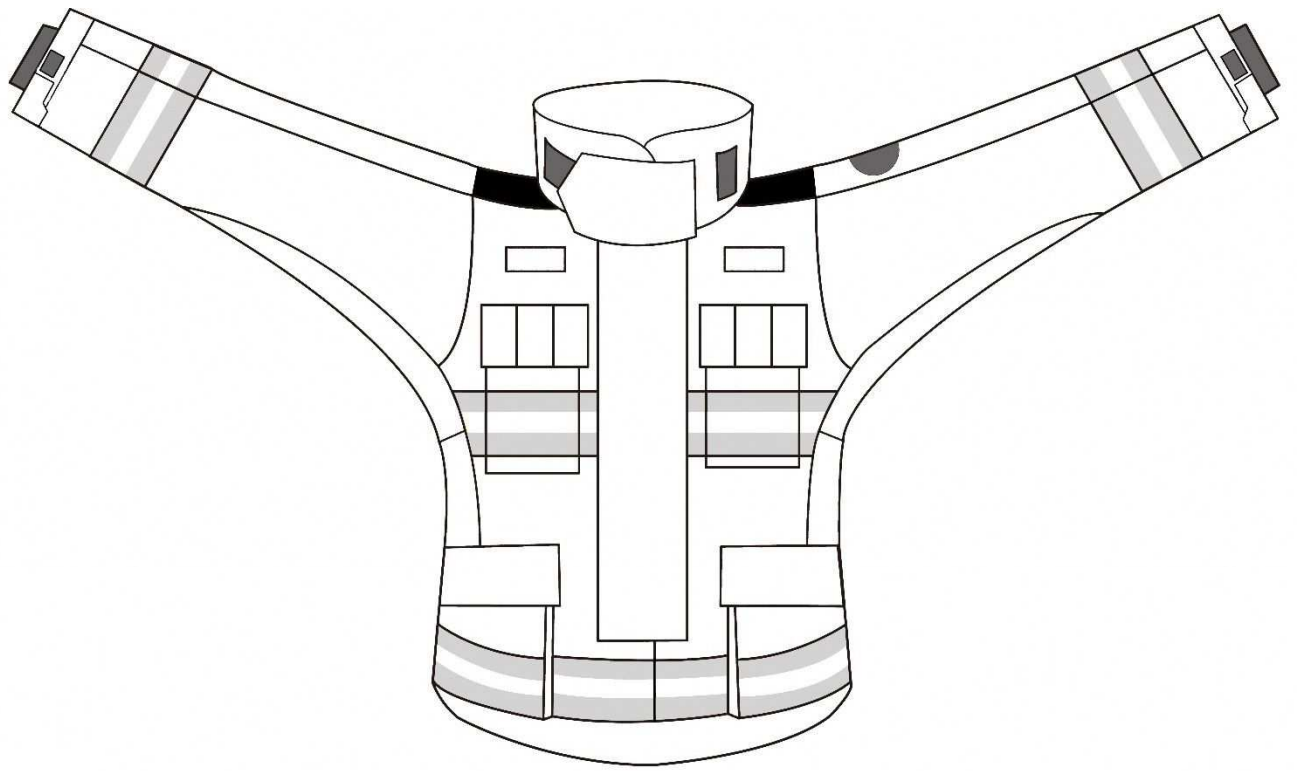
	S	M	L	LL	3L	4L	5L	BM	BL	BLL	B3L	B4L
着丈	69	71	75	79	83	87	91	75	79	83	87	91
胸囲	116	120	124	130	136	146	156	124	130	136	146	156
裾回り	109	113	117	123	129	139	149	117	123	129	139	149
衿丈	77	80	83	86	89	92	95	78	81	84	87	90
袖口幅	16	16	16	16	16	20	20	16	16	16	20	20
腕回り	49	50	50.5	51	52	54.5	57	57.5	59	61	66	70

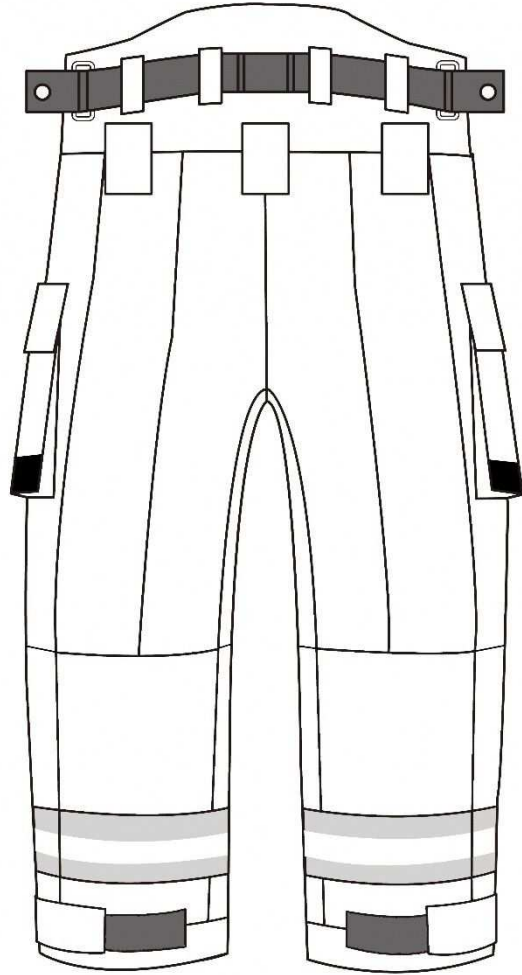
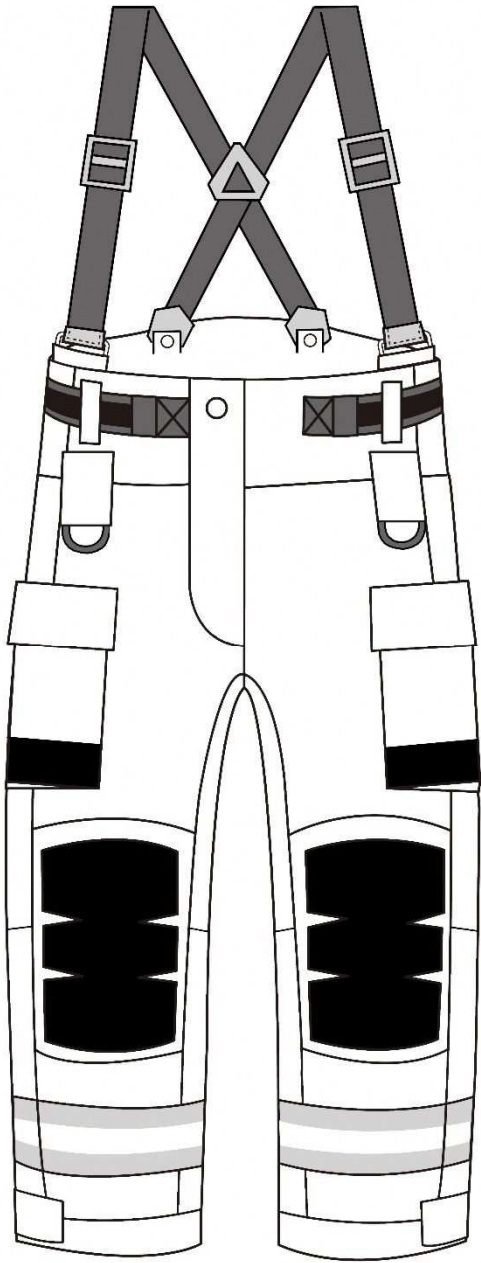
2) ズボン

	W75	W80	W85	W90	W95	W100	W110	W120
ウエスト	75	80	85	90	95	100	110	120
股上	33	33	34	35	35	36	37	38
股下	5cm ¹ ずつで対応すること							
渡り幅	36	36	37	38	39	40	43	46
裾幅	21	21	21	21.5	22	22.5	23	24

7. その他

- 1) 防火衣用のバッグとして、防火衣一式につきギアバッグMS-1を1個付属すること。
- 2) 納入時にメーカーの製品出荷証明書を提出すること。
- 3) 本仕様書に疑義が生じた場合は、事前に消防本部に確認すること。
- 4) 購入した数量分の旧防火服を廃棄引き取ることとする。





防 火 帽 (し こ ろ 付)
N E O - P 2 2 型 (G S 2)

仕 様 書

磐 田 市 消 防 本 部

総則

労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）第42条の規定（以下「労安法」とする。）に基づく保護帽の規格（平成3年6月労働省告示第39号）に適合するものとする。

この防火帽はNEO-P22型（GS2）（当市指定）とし、しころは株式会社赤尾製SP型（GS2）（当市指定）とする。

仕様

1 構造

(1) 概要

防火帽は、別図①のように白色の帽体表面に徽章及び赤線を貼り付け、左右に消防本部名を入れたものとする、後頭部に個人名を入れたものとする、内側に衝撃吸収ライナー、ヘッドバンド等の装着体及び可動式の顔面保護板を取り付け、帽体下部の外周部にしころを取り付けられるものとする。また、物体の飛来または落下による危険及び墜落による危険から装着者の頭部を保護する構造及び性能を有し、頭部の動きによるぐらつきが少なく、装着中に不快感が無いこと。

(2) 形状等

ア 帽体

(ア) 本体

別図①及び次の通りとすること。

- a 表面は滑らかで、堅牢であること。
- b 外面（表面）の仕上げは、シルバーの塗装とし、容易にはく離しないこと。

(イ) 徽章等

株式会社赤尾製塩化ビニール製反射前章（署）は帽体前面中央に強固に取り付け、周章赤スコッチ線を取り付ける。

(ウ) 本部名表示

帽体の左側面に「静岡県 磐田消防」、右側面に「県岡静 防消田磐」と黒色で表示する。

(エ) 個人名

帽体の後頭部に個人名「〇〇（姓）+〇（名）」を黒色で表示する。

(オ) 掛け金具

帽体後部中央に半月環状の掛け金具を取り付けること。

イ 装着体

(ア) ハンモック

かぶり深さを調整できる、補助ハンモック付とすること。

(イ) ヘッドバンド

頭回りに応じて概ね54cmから60cmまでの範囲で自由に調節できることとし、頭が接触する部分に、吸水性及び耐久性に優れた素材を取り付けること。

(ウ) しころ取付板

別図①及び次の通りとすること。

- a しころ取付用として、帽体に取り付けること。
- b しころ取付板には、押しホック（オス）を6個取り付けるものとする。

(エ) 頭頂パッド

頭頂部にクッション性、吸水性及び耐久性に優れた素材を使用した小判型、もしくは正

円型の頭頂パッドを着脱可能な方法で取り付けること。

ウ あごひも

- (ア) あごひも（アゴ締め用）は、片方を押しホックで着脱できるものとし、使用中防火帽が脱落したり、ぐらついたりしないように確実に締められるものとする。
- (イ) あごひも調節金具に、あごひもと同素材を用いたつまみを取り付けること。

エ 装着体固定リベット

装着した状態で、装着体固定リベットと装着者の頭部が直接接触しないこと。

オ 顔面保護板

- (ア) 前面からの注水に対し顔面を保護できる構造とし、視界の妨げとなるゆがみ等がないこと。
- (イ) 帽体から円滑に引き出せ、引き出した状態でぐらつきを防止するロック機構を設けること。
- (ウ) 下側縁の形状は、空気呼吸器用の面体に合わせた円弧状とすること。
- (エ) 収納した状態で、中央部の下がり $は15\text{ mm}$ 以下とし、両端は視野の障害とならないこと。

カ しころ

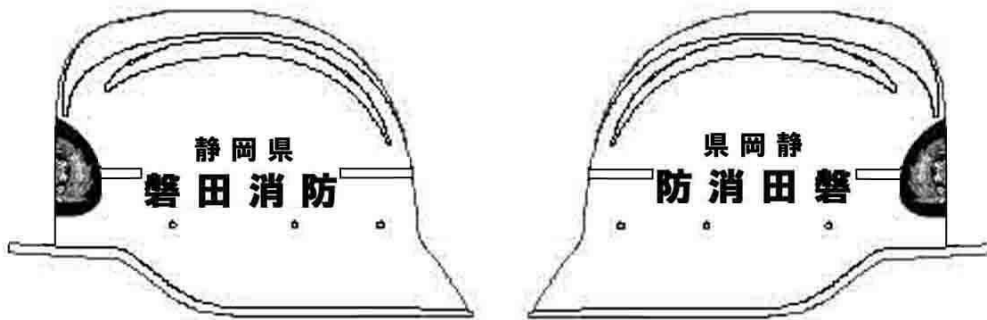
- (ア) しころは1枚裁ちとし、傷、汚れ等の欠点のないものとする。
- (イ) 当市指定防火衣生地と塩ビ生地を、重ねて縫い合わせたものを使用する。
- (ウ) 裏面上部へりを、綿テープにより補強する。
- (エ) 顔面を覆う折り返しを外衣生地で縫い付ける。
- (オ) 片布を裏面に縫い付ける。
- (カ) 前立て部分に面ファスナーを取り付け、収納は三つ折りとする。
- (キ) しころには、押しホック（メス）を6個取り付けるものとする。

2 その他

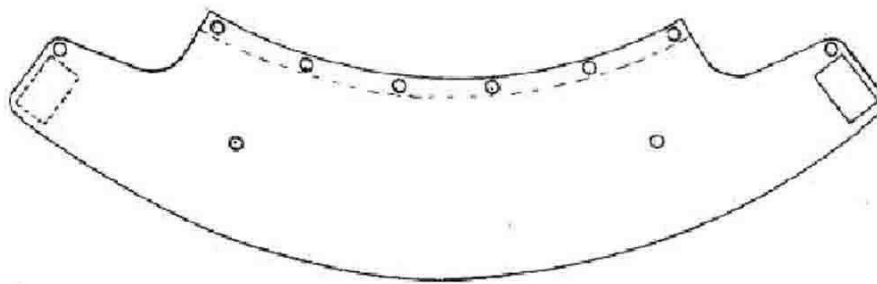
- (1) 詳細について不明な点がある場合、担当者と打ち合わせすること。
- (2) 納品後速やかにメーカーの製品出荷証明書を提出すること。

3 別図

帽体



しころ



墜落静止用器具

NEO-R2 型 磐田市消防本部仕様

仕様書

磐田市消防本部

1. 適用範囲

本仕様書は高所作業において、万一の墜落を防止するために使用する胴ベルト型墜落制止用器具について適用します。

2. 形状及び寸法

形状及び寸法は付図の通りとします。

3. 材 料

胴ベルト型墜落制止用器具に使用する主な材料は下表の通りとします。

表1 部品の材料

部品		材 料
胴ベルト		合成繊維製ベルトを使用する。
ワンタッチ バックル	フレーム 差込プレート	J I S G 4 0 5 3（機械構造用合金鋼鋼材）S C M 4 3 5またはこれと同等以上の機械的性質を有したものを使用する。
	ケース	合成樹脂成形品を使用する。
ベルト通し		J I S G 4 0 5 1（機械構造用炭素鋼鋼材）S 5 5 C、またはこれと同等以上の機械的性質を有したものを使用する。
D 環		J I S G 3 1 0 1（一般構造用圧延鋼材）S S 4 0 0、またはこれと同等以上の機械的性質を有したものを使用する。
連結金具		J I S G 3 1 0 1（一般構造用圧延鋼材）S S 4 0 0、またはこれと同等以上の機械的性質を有したものを使用する。
カラビナ (アルミ)		カラビナ本体は、J I S H 4 1 4 0（アルミニウム及びアルミニウム合金鍛造品）またはこれと同等以上の機械的性質を有したものを使用する。
ストラップ		合成繊維製ストラップを使用する。
ショックアブソーバ		合成繊維製ベルトを使用する。
すべての材料は、傷・割れ・錆・その他の欠点無く、金属部の表面は平滑に仕上げ、耐食性の処理を施す。		

4. 構造

胴ベルト型墜落制止用器具の各部の構造は下表の通りとします。

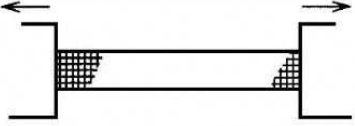
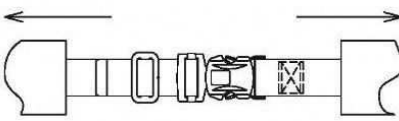
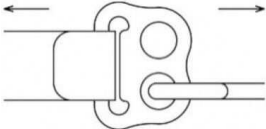
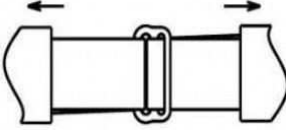
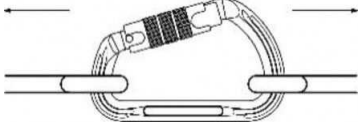

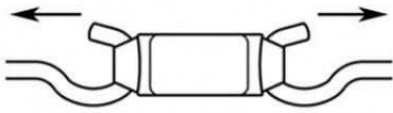
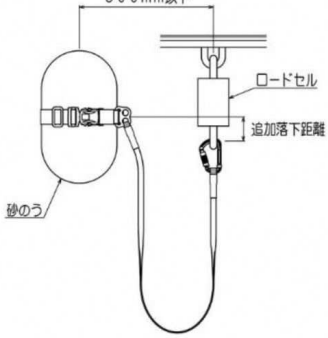
表2 部品の構造

部品	構造
胴ベルト	細幅織ベルトとし、一端にバックル本体を取付け、他端に差込プレートを取付けた構造とする。バックル本体取付部は縫糸により確実に縫製する。また、差込プレート側の端末はほつれ止め加工を施す。
ワンタッチバックル	装着の操作がワンタッチ式で、ベルトを容易に装着できる構造とする。取り外しの操作は二つの連続した操作によらないと外れない二重安全構造とする。また、ベルトの長さを自由に調節できる構造とする。
ベルト通し	継ぎ目のないものとする。
B環	表面は平滑、かつ角の部分は円滑とする。ベルトとの接触部分には摩耗防止の措置を講じる。
連結金具	継ぎ目のないものとする。表面にはナイロンコーティングを施したものとする。
カラビナ	自動的に閉じ、かつ二つ以上の連続した操作によらないと外れない適切な外れ止め装置を備えた構造とする。ストラップの横ずれを防止するためロープずれ防止ゴム環を取付ける。
ストラップ	細幅織ベルトとし、ストラップの一端にはB環を介してショックアブソーバを、他端にはカラビナを連結し、その取付部には摩耗防止の処置を講じる。
ショックアブソーバ	墜落制止時に衝撃を緩和する機能を有し、一端に胴ベルトと連結するための連結金具を、他端にはストラップを連結するためのB環を取付けた構造とする。

5. 性能

胴ベルト型墜落制止用器具の性能は下表の通りとします。

表3 性能

試験項目	試験方法	規格値
性能一般	<p>胴ベルト型墜落制止用器具の各部は次の規格値に適合するものとする。 なお、繊維製品の引張速さは規定強度の50%までは毎分300mm以内とし、それ以上は毎分150mm以内とする。また、金属製品の引張速さは毎分25mm以内とする。</p>	
胴ベルトの強さ		15.0 kN 以下で破断しないこと。
バックル連結部の強さ		8.0 kN 以下で破断、またはその機能を失う程度に変形しないこと。
B環の強さ		11.5 kN 以下で破断しないこと。
連結金具の強さ		11.5 kN 以下で破断しないこと。
カラビナの強さ		11.5 kN 以下で破断、または外れ止め装置の機能を失わないこと。
ストラップの強さ		15.0 kN 以下で破断しないこと。
ショックアブソーバの強さ		15.0 kN 以下で破断しないこと。
組合せ品の耐衝撃性及び関連性能	 <p>落下体：砂のう 130kg 自由落下距離：1.6m (ランヤード長さ1.5m+追加落下距離0.1m)</p>	<p>砂のうを保持できること。 衝撃荷重：4.0 kN 以下であること。 (2.2 kN 以上の平均値とする) ショックアブソーバの伸び： 1.2 m 以下であること。</p>

6. 表示

下記事項を胴ベルト型墜落制止用器具の胴ベルトおよびショックアブソーバの適当な個所に、容易に消えない方法で表示します。

(1) 胴ベルト

- ・ 製品名 墜落制止用器具
- ・ 製造年月 例：19 - 07
- ・ 製造番号 例：000001
- ・ 製造者名またはその略称 FUJII-DENKO

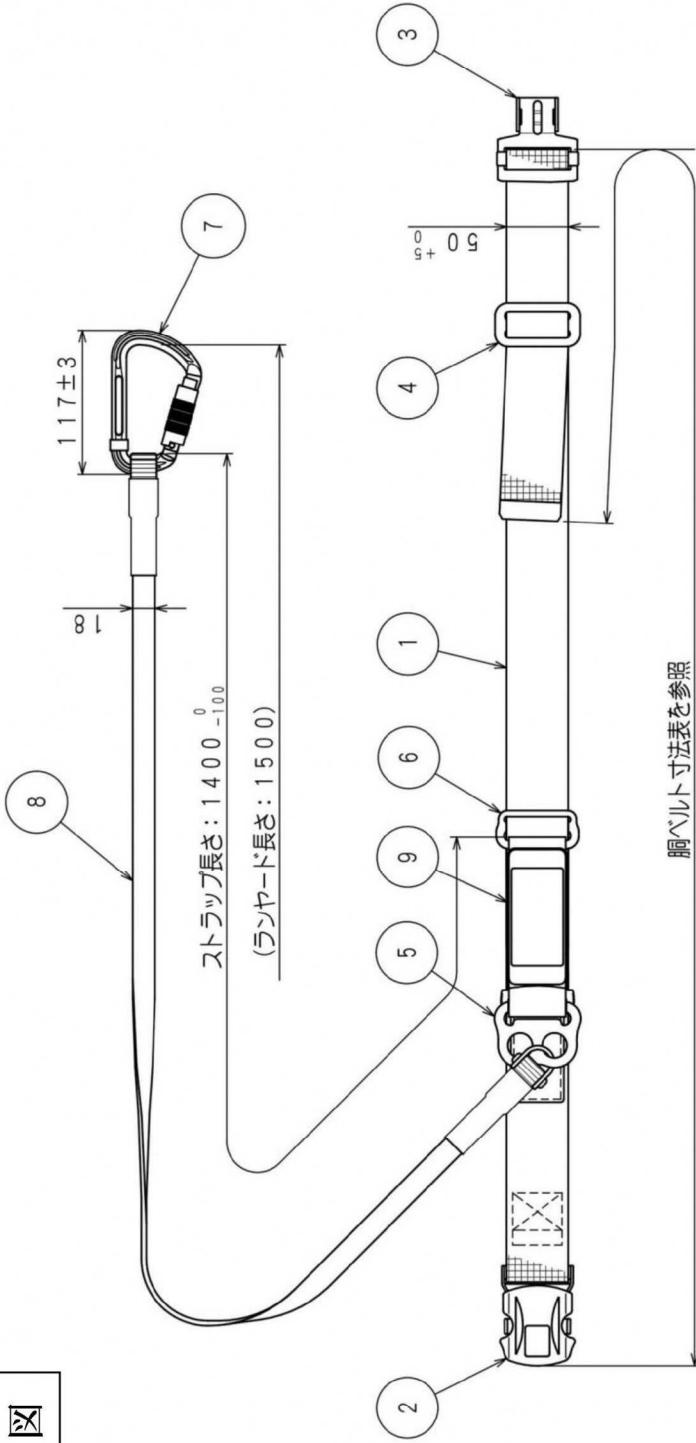
(2) ショックアブソーバ

- ・ 種類 胴ベルト型
- ・ ショックアブソーバの種別 第一種
- ・ 使用可能質量 例：130 kg
- ・ 最大自由落下距離 例：1.8 m
- ・ 落下距離 例：3.7 m
- ・ 製造者名またはその略称 TSUYORON

7. 包装

納入の際は1組毎に紙箱に納め、輸送する際には適当な数量を荷造りします。

付図



番号	名称	番号	名称
4	胸ベルト部	9	ショックアブソーバ
3	ベルト通し	8	ストラップ
2	バックル差込プレート	7	カラビナ
1	ワンタッチバックル本体	6	連結金具
	胸ベルト	5	B 環
			ランヤード部

胸ベルト寸法表

L	1400
M	1200
サイズ	寸法

※公差: ±30

※ 公差の無い寸法及び () 内の寸法は参考値とします。

単位: mm

エミュファイター防火靴
SG-AO (GS 2)

磐田市消防本部

1. 規格

- ・ J I S T 8 1 0 3 (静電気帯電防止靴)

帯電防止性能区分：E D (一般静電靴)

防護性能区分：P (安全靴)

甲被区分：非耐油性ゴム ※但し、表底は耐油性ゴムを使用する。

環境区分：C 3

作業区分：L (軽作業用) ※但し、先しん性能は I S O 1 1 9 9 9 - 6 に準拠とする。

付加的性能：E (かかと部の衝撃エネルギー吸収性)

P (耐踏抜き性)

- ・ 外部での I S O 1 1 9 9 9 - 6 に関する性能試験に合格していること。

2. 品質

2-1. 外観

- 1) 表底、踵部、胴部、甲部、その他の接合部分の密着が良好で、かつ、はがれ、浮きなどの欠点がないこと。
- 2) 付属品 (アイレット、ファスナーなど) の付け方が堅固であること。
- 3) 使用上有害な傷、亀裂、気泡、異物の混入、その他これらに類する欠点がないこと。
- 4) 目立って外観を損なうような斑点、汚れ、模様の不鮮明、その他の欠点がないこと。
- 5) 表底には、使用目的に適合した滑り止め、その他の意匠があること。
- 6) 裏布は染むらのないものであること。
- 7) ファスナーは着脱しやすい様に可能な範囲で斜めにする。
- 8) 爪先ゴム、履口ゴム、反射テープは黄色、J I S マークは黄色とし、他のゴム部品は黒色とする。

2-2. 性能

長靴は以下に示す規格に適合しなければならない。

試験項目		性 能 規 格		試験方法
表底の試験	引張試験	引張強さ MPa	9 以上	JIS K 6251
		伸び %	350 以上	
	老化試験	引張強さの変化率%	-20~+20	JIS K 6257
	浸せき試験	体積変化率 %	12 以下	JIS K 6258
	耐磨耗性	相対減量 mm ³	250 未満	ISO 4649 A法
耐屈曲性	屈曲回数30,000回での 亀裂長さ mm	4 未満	ISO 20344	
甲被の試験	引張試験	引張強さ MPa	13 以上	JIS K 6251
		伸び %	420 以上	
	老化試験	引張強さの変化率 %	-20~+20	JIS K 6257
耐屈曲性	屈曲回数125,000回での亀裂のないこと		ISO 2023 附属書E	
耐炎・耐熱性能	耐炎性	残炎・残じん時間s	2 以下	ISO 15025 A法 又はJIS T 8022
		穴あき、着炎、熔融不可		
	熱伝達 (接触熱)	10分後	内部温度 42℃未満	ISO 20345
		20分後	劣化がないこと	
熱伝達 (放射熱ばく露)	20kW/m ² で40秒照射後の温度上昇℃	24 以下	ISO 6942 B法	
踏抜き防止板	耐屈曲性	屈曲回数1,000,000回で目に見える亀裂のないこと		EN344
完成品の試験	濡れ防止試験	連続して気泡が出ないこと。		JIS T 8101
	圧迫試験 及び 衝撃試験	サイズ cm	隙間 mm	ISO 20345 ※圧迫15kN、 衝撃200J
		23.0以下	12.5 以上	
		23.5~24.5	13.0 以上	
		25.0~25.5	13.5 以上	
		26.0~27.0	14.0 以上	
	27.5~28.5	14.5 以上		
29.0以上	15.0 以上			
耐踏抜き試験	荷重 N	1100 以上		JIS T 8101

	突き刺し抵抗	くるぶし上辺及び底周辺部 静荷重 N	196 以上	JIS T 8101に 準拠
		内踏まず部 静荷重 N	980 以上	
	かかと部の衝撃 エネルギー吸収試験	かかと部の衝撃エネルギー 吸収性 J	20 以上	JIS T 8101
	静電気帯電防止 性能試験	電気抵抗値 (R) Ω	測定温度：23±2℃ 1.0×10 ⁵ ≤ R ≤ 1.0×10 ⁸	JIS T 8103 環境区分：C3
			測定温度：0 ⁺² ° 1.0×10 ⁵ ≤ R ≤ 1.0×10 ⁹	

3. 寸法

- (1) 形状：長靴の形状は付図1の通りとする。
(2) 厚さ：長靴の各部の厚さは以下の通りとする。

(単位mm)

部 位	表 底 (最薄部)	甲 被
厚 さ	3.0以上	1.5以上

- (3) サイズ：長靴のサイズは以下の通りとする。但し、足囲は中敷を含まない時の値とする。

サイズ	22.5	23.0	23.5	24.0	24.5	25.0	25.5	26.0	26.5	27.0	27.5	28.0	28.5	29.0
足 囲	E E E													

- (4) 寸法：長靴の寸法は以下の通りとする。

(単位cm) 公差±1.6cm

サイズ	22.5	23.0	23.5	24.0	24.5	25.0	25.5	26.0	26.5	27.0	27.5	28.0	28.5	29.0
前 寸	33.0			34.0			35.0							
後 寸	32.0			33.0			34.0							

4. 仕様材料

長靴の使用材料は以下の通りとする。

使用部分	材料
甲被ゴム	加硫ゴム
表底	耐油性加硫ゴム
爪先スポンジゴム	加硫スポンジゴム
キックスタンド	加硫ゴム
裏布	スフメリヤス#20/1200本 (グレー)
くるぶし・底周辺補強	パラ系芳香族ポリアミド製フェルト
踏抜き防止板	ステンレス板 (バネ材) 厚さ0.5±0.04mm ※靴サイズ毎に1サイズ防止板が割り振られ、中底に対して全面カバーとすること
踏まず部踏抜き防止板	ステンレス板 厚さ0.60±0.07mm
先しん	鋼製先しん (ISO20345)
靴紐	ナイロン黒色160±10cm
ファスナー	10CNCDADHR1 黒 ※引き手の破損しにくい形状であること (付図5 ファスナー引き手図 参照)
ファスナー紐	黄色、樹脂加工丸紐・止め金具付
中敷き	導電性カップインソール (黒) パンチ穴付き ※縫製等の加工により安定して電気を流す構造
反射テープ	色調：黄色
JISマーク	JIS T 8103 (静電気帯電防止靴) ※認証機関：CERI ED-P/C3/非耐油性ゴム/L/EP

付 図 1 (全体図)

標準参考図です。

No	部 位
①	甲被
②	表底
③	靴紐
④	くるぶし・底周辺補強
⑤	反射テープ
⑥	先しん
⑦	ファスナー紐
⑧	ファスナー
⑨	踏まず部踏抜き防止板
⑩	J I Sマーク
⑪	キックスタンド

J I Sマーク

※色調は、ゴムベース色 黄色
印字色 黒色


JIS T 8103
 静電気帯電防止靴
 ED-P/C3
 CERI 非耐油性ゴム製 L EP
 CE0508019
 製造元: **シバタ工業株式会社**

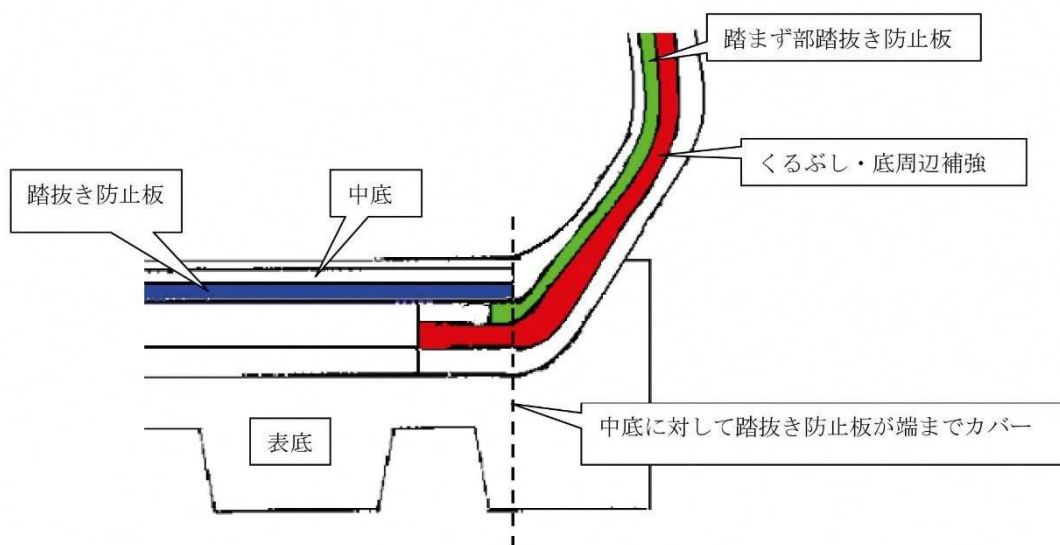


付 図 2 (表底意匠パターン) : I S O _ S G - A O 型

標準参考図です。



付図3 (くるぶし・底周辺補強, 踏抜き防止板, 踏まず部踏抜き防止板構造)



付図4 (ファスナー引き手図)

